東京都廃棄物処理施設の審査に係る専門家会議

議 事 録

日 時：平成30年5月15日（火）10:00～11:25

場 所：東京都庁第二本庁舎 31階 特別会議室26

○大藤産業廃棄物技術担当課長 定刻になりましたので、ただいまから「東京都廃棄物処理施設の審査に係る専門家会議」を始めさせていただきます。

審査について委員長に引き継ぐまでの間、本会議の進行をさせていただきます、産業廃棄物技術担当課長の大藤でございます。よろしくお願いいたします。

議事に入る前に、本日の会議について補足させていただきます。

この会議は、参考資料2として添付しております「東京都廃棄物処理施設の審査に係る専門家会議設置要綱」第10条の規定に基づきまして、公開となります。また、同要綱第11条の規定に基づき、議事録を作成し、原則として公開しますので、お含みおきください。

本日は現時点では傍聴者はありませんので、よろしくお願いいたします。

開会に当たりまして、資源循環推進部長の松永より一言御挨拶させていただきます。

○松永資源循環推進部長 環境局資源循環推進部長の松永でございます。本年4月1日付で、資源循環推進部長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、御多用中のところお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。また、日ごろより先生方には都の廃棄物行政、また資源循環行政について特段の御理解と御協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。専門家会議の開催に際しまして、大変僭越ではございますが、冒頭に一言御挨拶をさせていただきます。

東京都はこれまでも3R施策を中心とする我が国の循環型社会づくりに、積極的な役割を果たしてきたところでございます。今後も、資源を大量に消費する世界の大都市の一つとして、これまで以上に天然資源の採取の段階にまで配慮した、持続可能な資源利用に積極的に取り組んでいかなければなりません。

こうした持続可能な社会の構築に向けまして、平成28年3月には「東京都資源循環・廃棄物処理計画」を策定いたしまして、これに基づきまして具体的な取り組みを加速させているところでございます。

とりわけ2020年には、東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。大会の前後には、国内外から多くのお客様が訪れることが予想されます。これを機に、東京のすぐれた廃棄物の処理技術や先進的な資源循環のシステムなどを世界に発信して、東京のプレゼンスの向上の一翼を担っていきたいと考えてございます。

先生方には、今後も引き続き、都の取り組みの実現に向けまして、御指導、御鞭撻をよろしくお願いいたします。

本日でございますが、東京2020大会でボート・カヌー競技の会場となります海の森水上競

技場の整備に伴いまして、中央防波堤外側埋立処分場の維持管理に関する計画が変更となりますことから、先生方の御意見を頂戴したいと考えております。

活発に御議論いただきますようお願い申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくようお願い申し上げます。

○大藤産業廃棄物技術担当課長 ありがとうございます。

続きまして、お手元の資料1の専門家会議委員名簿によりまして、名簿順に本会議の委員を御紹介させていただきます。時間の関係で、お名前だけの紹介とさせていただきます。

奥委員でございます。

鎌田委員でございます。

坂本委員でございます。

藤吉委員でございます。

宮脇委員でございます。

吉葉委員でございます。

なお、藤倉委員は欠席の連絡が入っておりますため、本日の出席委員は6名でございます。

次に、本日出席しております東京都の幹部職員を御紹介いたします。

先ほど御挨拶をさせていただきましたが、資源循環推進部長の松永でございます。

調整担当部長の風祭でございます。

一般廃棄物対策課長の新井でございます。

産業廃棄物対策課長の上田でございます。

繰り返しになりますが、私は産業廃棄物技術担当課長の大藤でございます。よろしく御願いたします。

資源循環推進部長の松永でございますが、本日は急用が入りましたため、大変恐れ入りますが、ここで退席させていただきます。

○松永資源循環推進部長 よろしく御願いたします。

(松永資源循環推進部長 退室)

○大藤産業廃棄物技術担当課長 続きまして、お手元にお配りした資料の確認をさせていただきます。

まず、次第があります。

資料1は、専門家会議の名簿でございます。

資料2は、本日の座席表となっております。

資料3は、知事から当会議への諮問書の写しになってございます。

資料4、5は飛びまして、資料6は「関係区長からの意見に対する回答」となっております。

資料7は、「委員から事前に聴取した質問に対する回答」でございます。

最後の参考資料1、2、3は、それぞれ「東京都廃棄物処理施設の審査に係る専門家会議諮問の根拠法令」、「東京都廃棄物処理施設の審査に係る専門家会議設置要綱」、「東京都廃棄物処理施設の審査手続要綱」となっております。

お手元におそろいかどうか、御確認ください。

それから、本日御持参いただくことになっておりました資料4「一般廃棄物処理施設許可申請書」の冊子と資料5「産業廃棄物処理施設許可申請書」の冊子につきましては、お手元にご覧いただけますでしょうか。もし欠けているようであれば、お申し出いただければと思います。大丈夫でしょうか。

それでは、議事に入らせていただきます。会議次第をご覧ください。

本日の議事は3つございます。1つ目は「委員長の選任」、2つ目として「副委員長の指名」、3つ目に「中央防波堤外側埋立処分場の変更許可申請に係る意見聴取」でございます。

それでは、1つ目の議事、「委員長の選任」に入らせていただきます。「東京都廃棄物処理施設の審査に係る専門家会議設置要綱」第5条では、「委員長は、委員の互選により選任する」と規定されております。この規定に基づきまして、委員の皆様での互選をお願いしたいと思っております。

委員長につきまして、自薦他薦問いませんので、御意見はございますでしょうか。

○宮脇委員 以前より委員会で委員長としても御活躍され、廃棄物に関しても幅広い知識をお持ちの藤吉委員が委員長として適任かと思いますが、いかがでしょうか。

○大藤産業廃棄物技術担当課長 ただいま宮脇委員から、藤吉委員に委員長をとという御意見がありました。いかがでしょうか。

(「異議なし」と声あり)

○大藤産業廃棄物技術担当課長 ありがとうございます。

それでは、委員長に藤吉委員が選任されました。

藤吉委員、よろしいでしょうか。

(藤吉委員 首肯)

○大藤産業廃棄物技術担当課長 それでは、恐縮でございますが、委員長から御挨拶をお願い

いたします。

○藤吉委員長 皆さんの推薦で、また委員長を務めることになりました。

御存じのように、廃棄物処理施設は我々の生活環境のために極めて重要な役割を果たす施設ですが、その施設の設置と稼働が周辺環境に影響を与えるようでは本末転倒といいたいまいしょうか、計画そのものが停止されなければいけないということになりますので、この廃棄物処理施設の設置に係る専門家会議の委員の皆さんに、専門の観点から計画を十分検討いただいて、専門的な御意見をいただいて、周辺生活環境に影響を受けないような対策をしっかりと打てるような意見を出したいと思っております。

もとより専門の先生方の意見を積極的に出していただく雰囲気をつくと同時に、全体をどう取りまとめるかというのもむしろ重要な仕事かと思っておりますので、ひとつ御協力をよろしく願いいたします。

簡単ですが、挨拶とさせていただきます。

○大藤産業廃棄物技術担当課長 ありがとうございます。

それでは、以降の進行を藤吉委員長にお願いいたします。

○藤吉委員長 それでは、進行を引き継がさせていただきます。

2つ目の議事は「副委員長の指名」でございます。「東京都廃棄物処理施設の審査に係る専門家会議設置要綱」第6条では、「副委員長は、委員長が委員の中から指名する」となっておりますので、私のほうから指名させていただきます。

前期に引き続きまして、吉葉委員に副委員長をお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」と声あり)

○藤吉委員長 吉葉先生、お願いしていいでしょうか。

○吉葉委員 はい。

○藤吉委員長 吉葉先生に受けていただきましたので、副委員長をお願いしたいと思います。

続きまして、3つ目の議題に入らせていただきます。「中央防波堤外側埋立処分場の変更許可申請に係る意見聴取」でございます。

初めに、知事から本会議への諮問がございますので、お受けしたいと思います。

○風祭調整担当部長 それでは、私から諮問書を読み上げさせていただきます。

東京都廃棄物処理施設の審査に係る専門家会議

委員長 殿

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第9条第2項において準用する第8条の2第3項及び同法第15条の2の6第2項において準用する第15条の2第3項に基づき、下記の事項について諮問する。

平成30年5月15日

東京都知事 小池 百合子

記

平成30年1月12日付29環資一施第195号及び29環資産施第8号により東京都知事小池百合子から受理した中央防波堤外側埋立処分場の変更許可申請に関し、廃棄物処理施設に係る周辺地域の生活環境の保全について適正な配慮がなされたものであるか。

以上

(風祭調整担当部長から藤吉委員長に諮問書手交)

○藤吉委員長 ただいまいただきました諮問書につきましては、写しが手元にありますのでご覧ください。

本日は、中央防波堤外側埋立処分場に係る一般廃棄物及び産業廃棄物処理施設の変更許可申請について審議をしております。

欠席されております藤倉委員につきましては、本日の内容を事前に事務局から説明を行っておりまして、御質問については資料7に含まれておりますので、よろしく願いいたします。

また、本日は申請者等にも同席してもらっておりますので、専門的な意見の場合に申請者からの回答もあろうかと思えます。

最初に、今回の変更許可申請の概要について、事務局から説明をお願いいたします。

○大藤産業廃棄物技術担当課長 それでは、私のほうから御説明させていただきます。今回、このピンク色の産業廃棄物のほうの申請書を用いまして説明させていただきます。

まず、ピンク色の中表紙1枚目の「1. 変更の内容」でございます。1ページ目をご覧ください

ださい。目的ですが、東京都2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に伴い、ボート及びカヌーの会場となる海の森水上競技場が整備され、それに伴い、連絡通路の新設と中央防波堤外側埋立処分場北側の飛散防止フェンスの移設を行うものでございます。

この冊子の中表紙、ピンク色の後ろから3番目のところを開いていただきたいのですが、真ん中より若干後ろにあります、「6. 生活環境影響調査結果」の1ページ目に、カラーの【大会時イメージ図】というのがございますので、時折これを眺めていただきながら説明を聞いていただければイメージが湧くのかなと思っております。また、埋立処分場全体の航空写真は右のホワイトボードのところにかけておりますので、これもご覧いただきながら聞いていただければと思います。

それでは、また「1. 変更の内容」にお戻りください。3ページ目、連絡通路について御説明をします。予定位置について、図-1の右側の赤丸の部分のところは連絡通路、立入防止柵、飛散防止フェンスを新設する部分でございます。緑色の破線部分が既存の飛散防止フェンスを撤去する部分となっております。

4ページ目、A3が折り込んであります。図-2は今の部分の拡大で、現況と変更後の平面配置図となっております。連絡通路については、右側にあります赤い部分となっております。

6ページ目、図-4は連絡通路平面図となっております。今回の連絡通路は海の森水上競技場の東側の締切堤、この絵で言うと左側になるのですが、そこと臨海道路、これは右側の部分ですが、そこを接続するという形となっております。

裏面の7ページ目が連絡通路の断面図となっております。左側のほうにボックスカルバートがあって、その右側が軽量盛土工法による、有効幅員が3mの通路という形となっております。

ちなみに、このボックスカルバートは、処分場の維持管理通路を確保するために設けられているということでございます。

それから、この連絡通路の施工に当たっては、二重矢板護岸部のタイロッドをいじらないという構造でございますので、護岸への影響はないものとなっているそうです。

さらに、高さ1.8mの忍び返しつきの立入防止柵をこの通路の両側に設けるということでございまして、埋立処分場内にみだりに人が立ち入らないようになってございます。

13ページ、図-10に雨水排水計画図がございます。今回、連絡通路ができるということで、そこへ雨が降った場合の路面部の雨水は、通路のちょうど中央部分に横断側溝というものを

つくりまして、そこに集められ、集水桝を経由して既設の桝へ排出されるということでございます。雨に関しては降雨強度50mm/hを想定して、排水管の口径を算出しているということでございます。

それから、この連絡通路の東側、右側に薄い黄色と薄い水色の部分があるのですが、この部分は今まで維持管理用の通路となっていたのですが、この連絡通路が設置されることによりまして雨水がたまりやすくなるということで、それを防止するため、2カ所、この赤い線が入っている部分ですが、自由勾配側溝を設けることによって、連絡通路の下をくぐって西側に雨水が逃げるようにしている。もちろんボックスカルバートのところでも逃げるのですが、長めの連絡通路があるということで、こういった対策をとっているということでございます。

続いて、飛散防止フェンスについて御説明します。20ページまで飛んでいただければと思います。A3で折り込んでいるペーパーでございます。このフェンスの全体配置平面図でございますが、下側にあります変更後の赤色の破線部分、この護岸際のところですが、撤去して胸壁のみにするということになっております。臨海道路南側というのは、緑色の実線の部分ですが、この部分は既存のフェンスがありますが、それに続くような形で、右側に赤色実線の飛散防止フェンスを新設するということになっております。

続いて23ページ、こちらは飛散防止の新設部の縦断図になっております。まず、臨海道路の既設フェンスというのは左側にある緑色の部分ですが、この端部と高さを合わせた形で、右のほうに東側護岸まで延長するような形でフェンスを新設するということになっております。また、処分場内に維持管理用の通路が護岸際にあるのですが、その重なる部分は通行できるような形で開閉できる構造になっております。また、この赤色のフェンスの新設する基礎の部分ですが、これは最終覆土している部分が一部あるのですが、その厚みの範囲で掘削して基礎をつくるという形になっております。

「1. 変更内容」については、雑駁ではございますが、以上です。

続いて、「2. 産業廃棄物処理施設の位置、構造等の設置に関する計画」ということで、中表紙2枚目の部分でございます。このような計画書が1枚ついております。今回の整備に伴う部分ということで、「飛散防止設備」という項目がありますが、この部分は天端がA. P. 12mで統一されていたものが、今回、一部10.8になるということで、10.8～12mに変更になっております。

続いて次の中表紙、「3. 産業廃棄物の最終処分場に係る技術上の基準との適合性」とい

うのがありますが、これについても整備に伴って変更される部分を御説明します。

まず、第1条第1項第1号ですが、胸壁、飛散防止フェンス及び立入防止柵で囲ってあるということで、連絡通路の部分については立入防止柵が設置されまして、みだりに人が入らないようになっているということで、防止されているということになっております。

その下の部分、今度は第1条第1項第4号のイでございますが、構造上の安全性を確認しているところでございますが、これについては右にありますように、計算をして、後ろのほうに詳細な資料がついているのですが、確認をしてあるということございまして、構造耐力上安全であるということでございます。

続きまして、次のピンクの中表紙、「4. 産業廃棄物処理施設の維持管理に関する計画」でございます。今回の整備の部分に伴う変更点ということで、最初の上から3つ目の「ごみの飛散・流出の防止」という項目で、北側の護岸から約125mの位置に飛散防止フェンスを設置することになったということが変更になっております。

そのちょっと下の「囲い」という項目でございますが、これについては北側護岸部の部分が、フェンスがとられることによってでも、外周の護岸の胸壁で囲いがされているという形で変更になっております。

続きましてピンクの中表紙、「5. 産業廃棄物の最終処分場に係る維持管理の技術上の基準との適合性」についてです。第1条第2項第1号についてでございます。これは埋立地の外に廃棄物が飛散・流出しないように必要な措置を講ずることというところでございますが、これについては臨海道路の南側に飛散防止フェンスを設置するということになっております。

第1条第2項第5号ということで、めくっていただいて下のほうですが、こちらのほうはみだりに人が入らないように防止するというところでございますが、これについては外周護岸、あと飛散防止フェンスのみというところがあったのですが、それに胸壁の部分が加わっているという形になって、あとは立入防止柵で立ち入らないようになっているということでございます。

次のピンク色の中表紙の「6. 生活環境影響調査結果」の説明に入らせていただきます。最初のほうは競技場の概要について書いてありますので、そこは飛ばしまして、30ページまで飛んでいただきたいと思います。「2. 環境影響評価の項目」と書いてあるところでございます。こちらに、環境影響要因と選定した調査項目との関連について、表2-1にまとめてあります。廃棄物処理施設生活環境影響調査指針に基づきまして選定した調査項目については、赤の◎の部分で、3カ所あると思いますが、粉じん等、悪臭、衛生害虫となっております。

ます。○は、東京都2020オリンピック・パラリンピック競技実施段階環境影響評価書に示されている項目になっております。

続いて、31ページをご覧ください。今、選定しました項目について、その理由について御説明します。

まず、大気質（粉じん）の部分でございます。今回の整備に伴う掘削工事は、最終覆土の厚みの範囲ということで少量でございますので、廃棄物層は掘削することはないと考えております。ただ、万が一、廃棄物層に当たった場合は、埋立廃棄物を移動する必要があるということ、その際の粉じん等の発生を懸念して調査項目に選定しております。

続いて、悪臭についても同様に、万が一廃棄物の移動が生じた場合ということで選定しているということでございます。

3つ目の衛生害虫のはえについても、同じように万が一の発生を懸念して選定しております。

選定していないところは、下に続いてありますが、これは施設の存在の変更等がないことから選定していないということでございます。

続いて、33ページをご覧ください。生活環境影響調査の結論でございます。まず、大気質の部分でございます。計画地付近では全てにおいて大気安定度D（中立）の出現頻度が約66.9%を占め、風速の平均値は2.2～3.1m/sでした。あと、工事施工中に掘削した埋立廃棄物は外側埋立処分場で埋立・覆土処理するとともに、施工に当たっては施工中の散水、強風時には作業の中断、掘削が完了した部分では飛散防止用のシートで覆うなど、粉じん等の発生抑制及び飛散防止対策を講じるということでございます。そのため、生活環境保全上の目的を満たすと考えております。

続いて、右のページにあります悪臭であります。こちら、工事施工中に埋立廃棄物を掘削した場合、外側埋立処分場で埋立・覆土処理するとともに、廃棄物層の掘削時においては、工事区域の周辺の臭気のモニタリングや防臭剤の散布を行うなど、悪臭防止対策を実施するということでございます。そのため、生活環境保全上の目的を満たすと考えております。

続いて、衛生害虫（はえ）でございます。こちら、同様に、廃棄物が出た場合は埋立・覆土処理をして、衛生害虫の発生の程度によりまして、適宜薬剤の散布等、適切な措置を講じるということでございます。したがって、生活環境保全上の目的は満たすと考えているところでございます。

次ページ以降は、東京都2020オリンピック・パラリンピック競技大会実施段階環境影響評

価書に基づいて結論となっております、説明は省略させていただきますが、全項目にとわ
たって満足しているというような結論になってございます。

以上で概略説明を終わります。

○藤吉委員長 ありがとうございます。

事前に委員の皆さんは説明を聞いていらっしゃるかと思いますが、ただいまの説明で質問
等がありましたら受け付けますが、いかがですか。

特にないようでしたら、議事次第3の意見聴取に係る討議をしまいたいと思います。
その前に、関係区長及び利害関係者からの意見に対する回答、それから委員から事前に聴取
した質問に対する回答を聞いて、その上で議論に入っていきたいと思いますので、事務局の
ほうでそちらの説明をお願いできますでしょうか。

○大藤産業廃棄物技術担当課長 それでは、私のほうから御説明させていただきます。資料
6の「関係区長からの意見に対する回答」をご覧ください。

まず、大気質に関してでございます。(1)粉じん等の飛散対策について、「焼却灰が埋
められている箇所の掘削工事は、強風時には工事を行わない」としている。計画地付近は大
気安定度Dの出現頻度が66.9%を占めていることから、風が強い日が多いと考えられるため、
工事の実施判断は客観的な方法で行っていただきたいということをお大田区さんからいただい
ております。

(2)として、工事施工中は適宜散水、養生等を行い、粉じん等の発生抑制及び飛散防止
に努めること、強風時は粉じんが発生する可能性のある作業は行わないことということをお江
東区さんからいただいております。

これについては、右側にまとめて回答しておりますが、最終覆土面から覆土厚の範囲内で
掘削するため、廃棄物層までは到達しないと考えております。ただ、万が一、廃棄物が露出
した場合には、十分な散水及び養生を行うとともに、風の状況を常に確認し、粉じん等の発
生抑制及び飛散防止に努めてまいりますということでございます。

続いて、悪臭でございます。まず(1)悪臭対策について、「廃棄物層の掘削に際しては、
工事区域の周辺で必要に応じて臭気等のモニタリングを実施し、防臭剤の散布を行う」とし
ている。モニタリングの方法によっては、悪臭の発生が十分把握できない場合もあり、防臭
剤の散布が間に合わないことも懸念される。悪臭のモニタリングについては速やかに対応で
きる方法を検討していただきたいということをお大田区さんからいただいております。

(2)として、工事施工中、掘削した埋立廃棄物や廃棄物層の掘削に伴い生じる臭気の抑

制に努めること。江東区さんからいただいております。

これも右側にまとめて回答しております。最終覆土面から覆土厚の範囲内の掘削であるため、廃棄物層までは到達しないと考えられますが、万が一、廃棄物が露出した場合には速やかに対応してまいりますということでございます。

続いて、衛生害虫でございます。衛生害虫（はえ）の発生については、「施工区域の周囲において、衛生害虫（はえ）の発生状況の目視観察をする。発生が認められた場合には、発生の頻度により適宜薬剤散布等の適切な処理を講ずる」としています。衛生害虫（はえ）が発生したとき、風向きによっては大田区に衛生害虫（はえ）が飛来するおそれがある。また、気温が高い時期ははえの繁殖力が高く、発生が認められてから薬剤散布等の処理を講じたのでは適切に対応できないため、常に目視等での観察を実施し、早目の対応を行っていただきたいと大田区さんからいただいております。

これについて回答でございますが、最終覆土面から覆土厚の範囲内の掘削であるため、廃棄物層までは到達しないと考えられますが、万が一、廃棄物が露出した場合には、薬剤散布など早目の対策を行ってまいりますということでございます。

それから、その他ということで、（１）中央防波堤埋立地の土地利用計画は、東京港港湾計画（第８次改訂）において「埠頭用地」、「港湾関連用地」などが定められている。また、東京都は「『３つのシティ』実現に向けた政策の強化（平成30年度）」（平成30年１月）において、中央防波堤埋立地を含めた東京港の物流機能強化及び首都圏空港機能の強化を目標として掲げている。本区は、「おおた都市づくりビジョン」（平成29年３月）において、中央防波堤埋立地の将来像として「中央防波堤埋立地のポテンシャルを最大限に活かした空港臨海部の輝く未来の創出」を掲げている。東京、ひいては首都圏の更なる発展に向けて、中央防波堤埋立地と羽田空港及び空港臨海部とが一体的に活用されるまちづくりを、東京都と緊密に連携し、進めてまいりたいので、貴事業においてもその点について御配慮いただきたいと大田区さんからいただいておりますが、内容をご覧になってわかるとおり、ちょっと今回のとは違いますので、御意見として承りますということでございます。

（２）についても同様に江東区さんからです。ちょっと読み上げさせていただきます。

計画地である中央防波堤埋立地は、ごみの終末処理に伴う江東区民の負担と犠牲のもとに造成されたものであり、区の将来像を見据え、都と協議を重ねてきたという歴史的経緯を踏まえれば、本区へ帰属することが当然である。現在、係争中の境界確定請求事件に影響を及ぼす可能性のある以下の記載内容については、誤解の与えることのないよう、改められたい

と。

6の生活環境影響調査結果として、地域の概況ですが、「計画地南側には東京港臨海道路、計画地の西側には臨海道路青海縦貫線が位置しており、中央防波堤地区は、東京港臨海道路により江東区及び大田区、臨港道路青海縦貫線により江東区と接続している」と。「計画地である中央防波堤内側埋立地の西側には臨港道路青海縦貫線が位置しており、地理的には江東区のみと接続している。また、江東区有明と結ぶ臨港道路南北線も現在整備中である。なお、中央防波堤外側埋立地は、東京港臨海道路により江東区及び大田区と接続している」と。

また、4ページの航空写真については、臨港道路青海縦貫線が、第二航路海底トンネルによって、中央防波堤内側埋立地と接続していることを臨海トンネルと同様に示すべきであるということですが、これも今回の内容とは違いますので、御意見として承りましたという形で回答します。

続きまして、(3)でございます。当該処分場の構造変更・設備変更に当たっては、各種法令等の基準に準拠し実施するとともに、環境対策及び安全対策については、以下記載の事項についても遵守し、工事中及び整備終了後に周辺環境に影響が生じることがないように、万全を期することと、江東区さんからいただいております。

これは回答のほうで、各種省令等の基準に準拠することにより、環境対策及び安全対策には万全を期してまいりますということでございます。

続いて、対象地域は江東区景観計画の臨海景観基本軸に該当する。飛散防止フェンスの新設等について、高さ2m以上かつ長さ10m以上の工作物の場合には、江東区都市景観条例に基づき、確認申請・許可申請等の15日前まで江東区に景観計画の届け出が必要になるため、届け出提出前に江東区都市計画課（景観担当）と十分協議することということになっておりますが、これについては江東区都市景観条例に基づいて適正に対処しますということでございます。

続いて、工事施工中は相当量の工事車両の通行及び建設機械の稼働が見込まれることから、低燃費の車両や機器を使用する等、工事に伴う環境負荷の低減に努めることということです。

回答としましては、工事用車両について、計画的かつ効率的な運行管理により、通行が集中しないように対処いたします。また、低燃費型・排出ガス対策型の建設機械の導入等により、工事に伴う環境負荷の低減に努めてまいりますということでございます。

続いての質問でございますが、工事施工中に発生する廃棄物のほか、工事従事者等の食事による生ごみ・器等についても、発生抑制や資源としての有効利用を図り、ごみ減量に努め

ることというところでございます。

回答としましては、工事施工中はごみの分別等の徹底等により廃棄物の抑制に努めるとともに、工事従事者の食事については再利用可能な器を使用するよう促してまいりますということでございます。

続いての件でございますが、計画地の北側部分は、護岸部の飛散防止フェンス（A.P. +12 m）の撤去により、既設及び新設の飛散防止フェンス（A.P. +10.8m）のみとなるが、そうであってもなおこれまでと同程度に十分なごみの飛散防止効果が得られることについての根拠を示すとともに、十分な説明を行うことというところでございます。

これについての回答ですが、外側埋立処分場の北側は、既にごみの埋立は終了し、平成9年には最終覆土が行われ、公有水面埋立法に基づく竣功をしております。また、同年に可燃ごみの全量焼却がされるようになりまして、平成23年には産業廃棄物を含めた廃プラスチック類の処分場への受け入れを終了したため、現在は中間処理（焼却等）済みのごみしか埋め立てなくなっております。このため、現在も埋立作業を行っている場所からは十分な離隔がとれていることから、廃棄物が飛散することはなく、飛散防止フェンスの高さを変更しても問題は生じないと考えておりますということでございます。

続いての意見でございます。廃棄物層の掘削に当たっては、悪臭対策に加え、可燃性のメタンガスや有害な硫化水素などの発生のおそれがないかを事前に調査する等、安全対策にも万全を期することというところでございます。

回答といたしましては、最終覆土面から覆土厚の範囲内の掘削であるため、廃棄物層までは到達しないと考えられますが、万が一、廃棄物が露出した場合には、日常行っている安全対策と同様の措置を講じてまいりますということでございます。

続いての意見で、廃棄物層の掘削により生じた汚水や、粉塵発生防止の散水等により生じた排水は、既設の排水処理施設等において適正に処理した後、下水道に放流することということでございます。

回答としましては、先ほどと同様に、覆土厚の範囲内の掘削であるため、廃棄物層までは到達しないと考えられますが、万が一、廃棄物が露出した場合には日常行っている排水処理と同様の措置を講じてまいりますということでございます。

以上が関係区長からの意見に対する回答でございます。

続きまして資料7、委員から事前に聴取した質問に対する回答でございます。当日、こちらから回答し切れなかったということで大変御迷惑をかけておりますが、このペーパーで

御説明いたします。

まず、連絡通路の整備についてということで、雨水対策において降雨強度を50mm/hとして計算しているが問題はないかということでございます。

これについては、東京都排水設備要綱（東京都下水道局平成25年3月）に基づいて50mm/hと計算しておりますので、問題ないと考えております。

（2）についてでございます。最近、ゲリラ豪雨もあるので、根拠として新しいほうがよいと思われるが、平成25年3月以降にこの要綱の見直しを行っているのかどうかということと、計算を上回るような降雨があった場合はどうなるのかということでございます。

要綱については平成28年3月に改正された最新版があったのですが、強度の考え方については50mm/hということで変更はございませんでした。また、一時的なゲリラ豪雨、例えば110mm/h等の降雨強度は想定しておりまして、地覆立ち上がりの上に境界ブロックを設置して、外部に越流することがないように配慮しているということでございます。

続きまして、飛散防止フェンスの移設についてでございます。（1）飛散防止フェンスの高さA.P. +12mはどのような基準で決められたかということでございます。

これについては、中央防波堤外側埋立処分場を設置した昭和50年代当時は、可燃ごみ、紙ごみ、廃プラスチック等の埋立処分量が多かったためということで、それらが外側埋立処分場の外部へ飛散しないように飛散防止フェンスの高さについては、護岸水叩き部高のA.P. +4.5mに、全都清の「最終処分場指針」等で例示されておりますフェンス高上限値7.0mというのがあるのですが、これを加えると11.5で、大体丸めてA.P. +12mにしたと考えられております。

質問の（2）、飛散防止フェンスの高さがA.P. +12mからA.P. +10.8mになりますが、問題はないかということでございます。

これは、先ほどの区の質問にちょっと重なりますが、回答といたしましては、北側の220mの区間においては最終覆土が完了しているということと、また、現在埋め立て作業を行っている区間は、飛散防止フェンスから十分離隔があって、埋め立てている廃棄物の種類は中間処理済みの残さのみで、上記（1）の飛散性の廃棄物の埋め立ては行っていないということでございます。以上のことから、飛散防止フェンスの高さを変更しても問題ないと考えております。

続いて（3）、競技会場となるため人の出入りがふえると考えられるが、フェンスに忍び返しがなくても問題ないかということです。

これは、若干こちらの説明が不足していたということで御質問があったかと思いますが、臨海道路の南北に設置されている既設の忍び返しつきのフェンスということで、侵入防止は確保されているということでございます。さらに、今回、敷設されるフェンスについては、これは延長して延びる部分については飛散防止というところでございますので、問題ないということになります。

(4)の中央防波堤外側処分場ごみ飛散防止フェンスの荷重計算書の中で、暴風荷重作用時の風速を34mと想定したとあるが、根拠は何ですかということです。

これは、建築基準法上の風速基準に基づきまして都道府県ごとの設定がされておまして、東京23区は34mとなっているということでございます。

続きまして、生活環境影響調査でございます。(1)東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会についての環境影響評価結果を利用しているが、今回の変更事項も考慮して調査を実施しているのかということです。

こちらのほうは、環境影響評価書では水上競技場整備に伴う工事を想定して実施されておまして、今回の工事に伴う周辺環境への影響はないとしております。また、当該箇所に埋め立てられた廃棄物には最終覆土が施されておまして、覆土厚の範囲内の掘削でございますので、廃棄物層には到達しないと考えられているということです。したがって、環境影響評価書では廃棄物層に到達する掘削工事は想定していないということでございますが、今回の変更許可申請に伴っての環境影響調査では、万が一、廃棄物が露出したとき、その移動が必要となった場合を想定して調査しているということです。

(2)の「6.生活環境影響評価」の表2-1にあった「粉じん等」の項目で、「埋立・覆土用の機械の稼働(陸上)」のところ、「廃棄物の存在・分解」のほうではないですかということでした。悪臭についても同様に質問がありました。

これについてですが、本変更では、最終覆土面から覆土厚の範囲内での少量の掘削が計画されているということです。このため、粉じんの発生を「埋立・覆土用機械の稼働(陸上)」の調査項目として選定している。一方、最終覆土面から覆土厚の範囲内の掘削であるため、廃棄物層まで到達しないと考えられますが、万が一、露出した場合は、その移動が必要になった場合を想定して、悪臭及び衛生害虫を「廃棄物の存在・分解」の調査項目として選定しているということです。

(3)の同じく「6.生活環境影響評価」の「大気質」の部分で、「既存の埋立廃棄物の『掘削』に伴う粉じん等の飛散による当該施設及び周辺環境に及ぼす影響」、「悪臭」では

「既存の埋立廃棄物の『移動』に伴う悪臭の発生による影響」としてはありますが、掘削したときも臭気が出るのではないですかということです。

これについての回答でございますが、本変更では、先ほどから繰り返していますように、覆土厚の範囲内の掘削を計画しております。このため、大気質については「掘削」を環境要因としていると。一方、万が一、露出した場合の移動に伴うことを想定したところで、悪臭・衛生害虫についての「移動」を環境要因としているということでございます。

(4)でございます。衛生害虫に関する予測手法は定性的に評価が記載されているが、「6. 生活環境影響評価」の悪臭の(4)予測方法の2)予測手法について、もう少し丁寧に記載したほうがいいのではないかとということです。

これについては、悪臭及び衛生害虫については、現況把握の結果及び本変更に伴う工事の施工計画をもとに定性的予測法による予測を行っております。定性的予測手法では、現況把握が極めて重要であり、その方法及び結果について詳細に記載することで予測手法を説明できているということでございます。別のところで詳細に記載してあったということで、説明できていると考えているということでございます。

(5) 施工に伴う騒音への影響はないかとということです。これは先ほどのオリパラの環境影響評価書において、調査項目としては評価を行っておりまして、影響はほとんどないという結果を得ております。

(6) の変更に伴う施工の温暖化への影響はないかとということです。これについては、「建設機械の稼働(陸上)」、「廃棄物の存在・分解」等を環境要因として温室効果ガスを調査項目としておりますが、本変更においてはこの環境要因に対して生じる変更は小さく、温暖化への影響は極めて軽微であると考えております。

最後の(7)ですが、衛生害虫の発生について、蚊については評価しなくていいのかということですが、蚊については本施工によって発生する影響はほとんどないと考えているということでございます。

長くなりましたが、以上で資料の説明を終わります。

○藤吉委員長 ありがとうございます。

事務局からの説明が終わりましたので、この申請に対する御質問、御意見をいただきたいと思っております。諮問されております「周辺地域の生活環境の保全について適正な配慮がなされたものであるか」という視点から御意見を伺いたいと思っております。まず質問から始めてもらっても結構だと思います。いかがでしょうか。

どうぞ。

○坂本委員 資料6の悪臭と衛生害虫の大田区の意見ですけれども、モニタリングを実施し、防臭剤の散布を行うということが書いてあるけれども、大田区は、例えば悪臭だったらモニタリングについての具体的な方法を聞いているのではないかと思います。

衛生害虫のほうも、一番下から2行目、「常に目視等での観察を実施し」ということが書いてあるので、モニタリングの方法について質問されている、あるいは御意見なのかと思うのですけれども、それに対して回答がこれで十分かどうかちょっと疑問だったのです。

○藤吉委員長 事務局のほうで答えられますか。

○大藤産業廃棄物技術担当課長 具体的なモニタリング方法というのは施工者のほうでやっているのですが、今後、その辺を確認した上で、各区の意見をもとに、速やかに対応するというのはどういったことかというのを少しはつきりさせる形でやりたいと思います。

○藤吉委員長 ちょっと気になる場所ですね。今のところはないということで、でも、やりますという回答になっている。

ほかにございますか。

○吉葉副委員長 今の関連ですけれども、臭気は数値化できると思うのです。特定のガスもね。問題ははえに関しては目視という、こちらのほうに載っているのかもしれないのですけれども、それが大田区等の指摘は目視でいいのかという話ですが、もう少し踏み込んだようなモニタリングがあれば、どこかに明記しておいたほうがいいと思います。

だから、はえが見つかった時点でもう相当異常に繁殖しているという懸念があるわけですね。ですから、それをどういう形でモニタリングと広報をするか。その辺も含めたところをカバーした回答をしてもらわないと、何かピントがぼけた回答だなと。

基本的には、廃棄物のところまで出てしまったら、それを懸念しますよという話ですけれども、そうではなくて、覆土厚が下がってきたときに臭気も出てくるでしょうと。そういうところをどこまで要望しているか、あるいは想定しているか、その辺を踏まえた回答にしておかないと十分ではないと思います。

○藤吉委員長 これは基本的には、今後、具体的な対策を詰めていきますという理解でいいのですか。

○大藤産業廃棄物技術担当課長 例えばはえでございしますが、通常、処分場を維持管理する上ではもちろんはえ対策はとっているのですが、工事に伴って廃棄物層まで行ってはえが発生するようなところはもちろん対策はとるのですが、今、各区さんが心配されているように、

それだと後手に回るのではないかという部分については、もう一步進んだ取り組みというのは今後事業者のほうにしっかり指示をして、対策をとるような形でここに明記していきたいと思っております。

○藤吉委員長 その具体性は必要でしょうね。特に、悪臭は工事をされている方の鼻で検知できますよね。本人の官能試験でまず敏感にわかるはずのものですから、そういう工事中の注意事項をしっかりと書いていただくような対策は要と思いますね。

それから、はえにつきましても、廃棄物が露出するだけでも薬剤をまいて早期的な対策をとろうということでしょうけれども、はえというのは卵の段階はよく見えませんが、ウジが湧けばすぐわかってくるというもので、そういうところまで行ったらちょっと遅いよねという話になりますから、廃棄物が見え出したら薬剤散布をやるということなのだろうと思います。

一番気になるのが、粉じんの飛散防止です。具体的な、強風時というのはどう判断して、いつだったらとめるのかという話は、前回もありましたよね。風速何メートル以上だったらとめますという基準を持っているというお話があったので、そういう回答が来るという理解でいいのですかね。

○大藤産業廃棄物技術担当課長 はい。それでは、今の御意見に基づいて、もう少し詳細に書けるところははっきり回答するような形にしていきたいと思えます。

風速は具体的に何メートルでしたか。強風時、搬入作業等で。

○森原課長代理 秒速15mです。

○藤吉委員長 たしかそういう話が前回もあったような気がします。そういう具体的なことを回答としてもらっていただきたいということです。

ほかにございますか。どうぞ。

○宮脇委員 多くの質問の回答に「万が一」という話が結構あるのですが、実際、この区域の施工の覆土厚と掘削厚で、もともとの計画上でどの程度の余裕が覆土にあるのかということと、この地域は初期のころに埋め立てられている地域だと思うので、実際に施工している覆土厚が計画どおりになっているのかどうかというところがもしわかっていたら、万が一の程度も、ほとんどないことなのか、もしくは可能性としてはまれにあるのかというのがわかるのではないかと思うのですが、このあたりはいかがでしょうか。御質問です。

○大藤産業廃棄物技術担当課長 これは、例えば申請書の中表紙の1枚目のうちの24ページ、折り込んであるA3の「護岸部飛散防止フェンス新設部構造図」というのがありますが、

ここに実際に基礎がどのようにできるかという掘削する図があります。先ほどの覆土厚に関してですが、おおよそ1m程度と聞いております。その中で、これをご覧になっていただければおわかりになると思うのですが、例えば一番右下のものがわかりやすいかもしれませんが、左側に寸法が入っております。今、90センチのうち50センチの途中から下が基礎の部分になるのですが、これを見ると80センチ弱ぐらいかなと思っておりますので、これから見ると20センチ程度が少し余裕があるのかなと。

○宮脇委員 掘削の程度によるのか、最終覆土を仕上げるときの表面の精度なんかが、過去の処分場だと20センチぐらい狂う可能性は何となくありそうなので、万が一も可能性としてはやはりあるということですね。わかりました。

○大藤産業廃棄物技術担当課長 あくまでも万が一ということですよ。

○藤吉委員長 そういう意味では、これは出てくる可能性もあるような情報ではありますね。そういうときの対応策は一応書かれているということですね。

ほかにございますか。どうぞ。

○奥委員 飛散防止フェンスの高さが、12mのものを撤去して10.8mのもののみになるという点についてですけれども、資料6の江東区からの指摘の中では、10.8になってもなおこれまでと同等の飛散防止効果が得られることについての根拠を示すとともに十分な説明をしてほしいということですが、資料7のほうに同じような指摘が委員からされておりまして、1ページ目の(1)には、まずもともとどうして12mだったのか、割と明確な根拠がこちらに示されているわけですね。これは非常にわかりやすいと思うのですが、一方で10.8でも大丈夫だという根拠が、こういった指針がそもそもあって、それに基づいて10.8というものが導き出されるのだということであれば、根拠として非常に明確なのですが、そういうものが10.8についてはそもそもあるのか、ないのかということをお伺いしたい。

関連しまして、先ほどから御説明いただいたように、資料6と資料7には、そもそも昭和50年代に12mにした当時と現在では、埋め立てをするごみの組成も変わってきていると。さらに、現在埋め立てをしているところからフェンスまでは十分な離隔距離があるということなので、10.8でも大丈夫だという御説明なのだろうと思います。なので、まず確認したいのは、何らかの指針といったようなものに基づいて10.8でも大丈夫だと言えるような、そういう明確な根拠があるかどうかということと、もしないのであっても、今のようにごみの組成の変化と十分な離隔距離というところで10.8でも大丈夫なのだということ、そのあたりをしっかりと御説明いただく。その2点が非常に肝要なのかなと思っておりまして、そこを確認させ

ていただきたいと思います。

○大藤産業廃棄物技術担当課長 まず、10.8という高さを決める指針があるかというお話でございしますが、それについては、はっきり言えば、ございません。10.8という数字を決めるものはないですが、廃掃法上では、飛散防止対策をとるのにフェンスは対策の一部でありまして、通常、即日、その日のうちに覆土する等で飛散防止を図るということになっております。今回、維持管理上の基準で、過去の経緯で12mになっていたのですが、このエリアに関してはこういった背景のもとで、もう出ていくものはないと考えてはいますが、今、道路があるフェンスのところの高さで、再度、しっかり飛散防止フェンスをつくるという形で、今回は10.8の高さに合わせて設けますという形になっているということでございます。全く飛びませんと言い切れるかどうかという意味では、担保をとるために今回10.8のフェンスも一応設けることによって、再度飛散を抑える。万が一、飛散するということがあれば、この10.8で高さは十分であろうという根拠にしているということでございます。

明確に10.8という数字を決める指針がないので、その辺は不十分だよとおっしゃるかもしれませんが、現時点で現場ではそういう状況で対応していけると判断しているということでございます。

○藤吉委員長 いいですか。

○奥委員 致し方ないのだろうと思いますし、恐らく大丈夫なのだろうということだと思いますので、その辺、指針に基づいてこの数字というふうには言えないまでも、資料7のほうには書いてありますけれども、ごみの組成の変化と離隔距離の確保、それからそれ以外の飛散防止対策を全て組み合わせて万全な対策をとっていくのだということをしかりとお示しただいて、御説明いただくということが重要なのかなと思います。

もう一点、関連で確認させていただきたいのですが、十分な離隔があると、資料6、資料7に書いてありますが、これは距離としては、資料7のほうは北側220mの区間は覆土完了とありますが、この220mという距離を想定すればよろしいのですか。この十分な離隔といったときの距離はどれぐらいなのかというところです。

○大藤産業廃棄物技術担当課長 将来にわたってもう埋めることはないエリアが220mのエリアということになって、埋立竣功をしているという形です。

○奥委員 今、埋め立て作業を行っている区画は。

○大藤産業廃棄物技術担当課長 もっと南です。

○奥委員 どれぐらいの離隔距離があるのか。

(航空写真を用いて説明)

○大藤産業廃棄物技術担当課長 今、言いました220mというのはこの部分のことを言っているのですけれども、ここをこれから埋めることはないのですが、実際、埋めている作業はここになります。一部この辺になりますけれども、そこからは十分離隔はとれて、万が一こちら辺に埋めるようなことがあっても、十分距離が離れていますということです。

申請書にも色でつけたページがあるのですけれども、ここは埋立竣功で終わっていますというペーパーが入っておりますので、その部分を220mという形で示しております。

○藤吉委員長 ただいまの質問と回答のときにちょっと私は思ったのですが、この申請書類の最初の変更内容の23ページにフェンスの断面図があるのですけれども、今回の計画はフェンスの高さをグリーンの既設フェンスの10.77に面を合わせたということではないのですか。それで景観的にもすっきりという意図が何となく感じられたのです。10.77の根拠というのはそんなところにあるのではないかと思ったのですが、そうでもないのですか。

○大藤産業廃棄物技術担当課長 はい。10.8という数字が決まったのは、この高さを合わせるという意味で決まったことではございます。

○藤吉委員長 それでも十分だろうという判断ですか。

○大藤産業廃棄物技術担当課長 はい。実際、今、道路のほうにも飛散しているという事例はないということもございます。

○藤吉委員長 わかりました。

ほかにございますか。どうぞ。

○吉葉副委員長 私たちはこういう図面で大体想定できるのですけれども、可視化するのが一番説得力があると思うのです。だから、この高さだよというのをバーチャルで挿入して、横から見た高さの写真、これで12mと10.8mです、余り大差はないよねと言えば、どういう基準で高さを設定したかという以前に、これなら景観上もフラットだよねというので多分納得されると思うのです。そういう図を一つ挿入するだけでいいかなと思います。この図面は、間違いなく素人さんではわからないという話です。

○藤吉委員長 ほかにございますか。

事前に質問した回答がここに出てきておりますけれども、この回答ではちょっと不十分だという点も含めて質問とコメントを出していただくと議論が深まるかと思っておりますので、いかがでしょうか。どうぞ。

○吉葉副委員長 資料7の1ページ目の最後、(4)のフェンスの荷重計算書で、建築基準

法上の風速基準は、東京都は34mであります。これは市街地部と何の遮蔽もない港湾部は、想定を少し上げ底にしないと危ないのかなという気がします。ただ、東西に延びているフェンスですから、台風とか暴風は大体西風ですから、南北の冬とか夏の風とはちょっと違うので、逃げられるかなと思うのですが、これはそういうのを想定しないといけないのではないかなという懸念があるのですが、いかがでしょうか。

○藤吉委員長 事業者のほうで回答はできますか。

○吉葉副委員長 港湾局からはいらっしゃらないですか。

○藤吉委員長 設計上34mという風速を想定してやっておけば十分であるというのが言えれば、吉葉委員も納得されると思うのです。やはり海のほうが風は強くなるでしょうということなのですね。設定上はちょっとアローワンスで少し速目の風速で設計していますとか、何かしてやるといいかもしれませんね。

○大藤産業廃棄物技術担当課長 恐らく既存のもこれをもとにやっているのだと思うのですが、今の御意見をいただいて、そういったことも今後。

○吉葉副委員長 多分ない。ないことを祈りますけれども、最近の短時間の降雨量とか風速とかは、地方とかで台風並みのものが今ごろ吹いたりしますよね。東京でそういうのはないと思いますけれども、台風は6月、7月ぐらいから来ますから、オリンピックのとき大丈夫かというのはあります。

東京都の風速の実績ベースで、これはどのぐらいの数値なのですか。それよりも安全を見越した風速なのか。過去の記録に基づくのか。

○藤吉委員長 34mというのは相当強い風でしょう。台風並みですよ。

○大藤産業廃棄物技術担当課長 今、そのデータを持ち合わせておりませんので、これについてはまた後日回答させていただくということによろしいですか。

○藤吉委員長 わかりました。では、そういうことでいきたいと思います。

ほかにございますか。

特に余り大きな変更でなくて、連絡通路とフェンスですので、ここに回答をもらっている範囲で十分納得いくようなことになっているのではないかと思います。小さな点でも構いませんので、質問と追加の疑問点があればよろしくお願いたします。

先ほどの江東区都市景観条例に基づいて適正に対処しますという回答は、フェンスの色とか何か、いろいろ考えていくということなのですか。

○大藤産業廃棄物技術担当課長 それはちょっと確認しておりません。これから確認してい

きます。

○藤吉委員長 これからの施工でどうにでも変えられますから、調整しながら。

○風祭調整担当部長 既存のものと合わせて協議して。

○藤吉委員長 もう意見もないようですので、これで出尽くしたかなという感じがいたします。ありがとうございました。

それで、特に追加の議論は余りございませんでしたので、今回の質問と回答をベースに事務局から意見書の案として出せますか。あれば議論したいと思います。

(意見書(案)配付)

○藤吉委員長 それでは、本会議として意見書(案)を事務局のほうで説明していただきたいと思います。よろしくお願いします。

○大藤産業廃棄物技術担当課長 それでは、読み上げさせていただきます。意見書(案)でございます。

平成30年5月15日

東京都知事 殿

東京都廃棄物処理施設の審査に係る専門家会議

委員長 ○○ ○○

意見書(案)

30環資産第55号により東京都知事から諮問のあった中央防波堤外側埋立処分に関する、一般廃棄物最終処分場及び産業廃棄物最終処分場の変更許可申請については、本申請の変更に係る維持管理に関する計画が廃棄物、大気汚染、水質汚濁、騒音、振動、悪臭のそれぞれの項目とも周辺地域の生活環境の保全及び周辺施設に対して、適正な配慮がなされたものと判断する。

しかし、維持管理によって周辺環境に影響を及ぼすおそれがあることから、申請者に対し、次の事項について指導されたい。

- (1) 最終処分場の維持管理に当たっては、廃棄物の飛散防止など、引き続き周辺環境へ影響を及ぼさないよう努めること。
- (2) 工事の施工に当たっては、関係区が必要とする情報の提供ならびに適宜、生活環境保全上の配慮に係るニーズの把握に努め、適時適切な対応を図ること。

以上でございます。

○藤吉委員長 ありがとうございます。

この意見書（案）に対しまして御意見はいかがでしょうか。さらに追加すべきこと等がありましたら、御発言をお願いいたします。

1番目が維持管理に当たっての留意事項です。飛散防止、周辺環境への影響に十分配慮した維持管理をやってくださいということです。これは非常に重要ですね。いろいろな問題が起きる可能性を持っていますので、その維持管理の中で適切に配慮していくと。

それから、工事の施工に当たっては、関係区から景観を含めていろいろな要望が出ておりますので、そういう要望を把握し、適時適切な対応を図っていくということで、コミュニケーションをしっかりとって進めてくださいということです。

非常に大きく概括的な意見書になっておりますので、皆さんの意見が十分含まれているような気がいたしますが、追加的に何かぜひ入れたいということはございますか。

先ほどからちょっと出た、具体性がないという話とか、34mの根拠でいいのかという話については、この意見書の中にどう踏まえられるか。適切な対応をとっていきますというところで十分踏まえられているかどうかです。その対応いかんによっては修正してくださいという話にもなるのか。

事務局の事務として、今後どうなりますか。意見書（案）として出す場合に、何か回答がもらえるという理解でいいのですか。

○大藤産業廃棄物技術担当課長 意見書としては、こちらはあくまでも事務局の案でございますので、また委員長のほうで各委員から意見を集約していただいたのをまた訂正して最終案という形に。

○藤吉委員長 そういう手順もあり得ると。ですから、ここでは回答を待たないと何とも言えないという意見もあり得ますね。ですから、回答が来た上で、十分この文章2つで我々の意見が尽くされているということになり得ることもありますね。

ほかに御意見はありますか。

では、これはそういう回答をいただいて、きょう欠席されている藤倉先生からの意見もいただきまして、この（案）をとる方向で調整させていただくという作業を今後進めたいということでもいいでしょうか。

○吉葉副委員長 1文字、ちょっと。衛生害虫に関して書いていないので、悪臭の後に「等」を。「その他」でもいいのですが。要するに、ほぼ全域をカバーしていますよと。具体的に

はと問われたら、ここも入っているのだという話で、検討項目はそれなりに箇条書きでいいので書いておく必要があると思いますね。(1)(2)はこういう前向きのことも含めて、それぞれの対応区も回答していますよと。それで多分今回はスピリットでいいのだろうと思いますが、「等」というのを。

○藤吉委員長 要するに、廃棄物の飛散防止だけでないの。

○吉葉副委員長 (1)はこれでいいのです。前文の4行目。「悪臭等」あるいは「その他」でもいいです。具体的にははえですと。

○藤吉委員長 「等」を入れることが可能かどうか。ここで言っているのは、衛生とかはえの問題も議論して、それを含めるという意味で「等」を入れたいという御意見です。事務局としてそれは構わないですか。

○大藤産業廃棄物技術担当課長 今、委員長がおっしゃるとおり、基本的には書いてある項目について意見をいただく形にはしているのですが、おっしゃったとおり、衛生害虫も含めた意味で「等」を入れることが可能かどうか、ちょっと確認して、入れることができれば入れた形にさせていただきます。

○吉葉副委員長 大田区からは間違いなく書いてあるわけで、あそこは苦い経験をしているわけで、羽田空港を「はえ」や「蚊」が占拠したという騒動を前回の委員会でもお話ししましたが、あの当時を知っている人は余りいないので。

○藤吉委員長 では、そういう意味を含めて、「等」をここに入れていただくということですね。

下のほうの文章では、「廃棄物の飛散防止など」ということで入っていますので、ここに含まれているという理解でいきたいと思います。

それでは、回答をいただいた上で、委員の皆さんから了解をもう一度とり直す。欠席の藤倉先生からも御意見をまとめて集約し、意見書(案)から(案)をとりまして、委員長名を加えて提出していきたいと思っております。

これでいいでしょうか

○奥委員 今後の対応としては、今、御説明があったとおりでよろしいかと思えます。(2)の文章で1点だけ気になるところがあります。2行目に「適宜」というのがありますが、この「適宜」はその前の「関係区が」の前に持ってきたほうがよいのではないかと思います。つまり、関係区が必要とする情報提供並びにニーズの把握、「並びに」でくっつけないとおかしい。その間に「適宜」が入ると文章としておかしいので、「適宜」を前のほうに持って

きていただいたほうがよろしいかなと思いました。

○藤吉委員長 そうですね。適切な御意見をありがとうございました。ぜひそのように変えてもらいたいと思います。

○大藤産業廃棄物技術担当課長 はい。訂正したいと思います。

○藤吉委員長 それでは、これをもちまして議事を終了したいと思います。委員の皆様方、御多忙の中、出席いただきましてありがとうございました。

それでは、事務局にお返しいたします。

○大藤産業廃棄物技術担当課長 どうもありがとうございました。

都といたしましては、本日、委員の皆様方からいただいた貴重な御意見を踏まえまして、これから厳正に許可審査をしていきたいと思っております。

本日は、長時間にわたりまして貴重な意見をいただきまして、どうもありがとうございました。これで閉会といたします。